

## 足立区こども計画審議会

根拠規定: 足立区こども計画審議会条例 【資料2】  
足立区こども計画審議会条例施行規則 【資料3】



### 審議会委員 18名

- 学識経験者 4名
- 区内で活動する有識者 4名
- 足立区内在住、在勤または在学の方 4名  
うち、若者委員 2名
- 足立区議会議員 4名
- 足立区職員 2名

※ 委員名簿 【資料4】

### 【足立区こども審議会の役割】

足立区こども計画策定にあたって、必要な事項について調査審議します

### 【任期】

令和6年8月～令和8年3月まで

### 【開催回数】

5回程度の予定

※ 原則、会議は公開  
平日、夜間、1回2時間程度

### 【報酬】

- ・ 学識・有識者委員: 21,000円(1回につき)
- ・ 一般委員: 8,000円(1回につき)
- ※ 会長は+2,000円

足立区長がこども計画策定にあたって、審議会へ  
諮問(意見を求める)をします

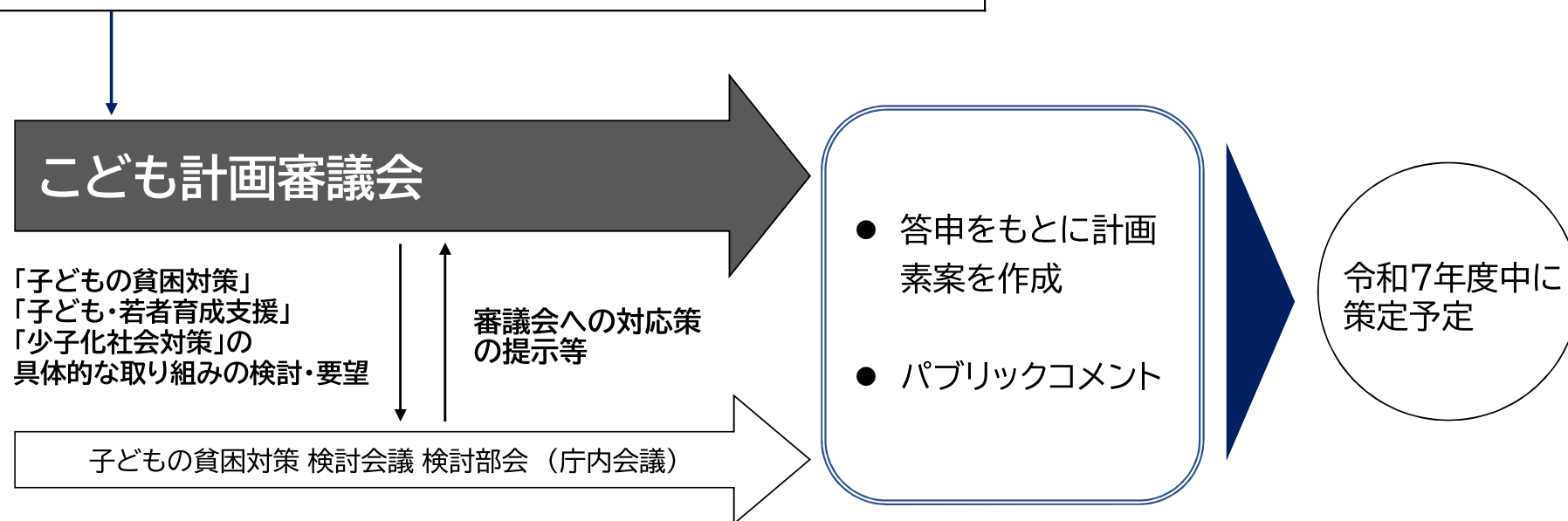


足立区長

審議会としての意見を取りまとめ、  
足立区長へ答申(意見を述べる)を行います

## こども計画審議会のスケジュール①

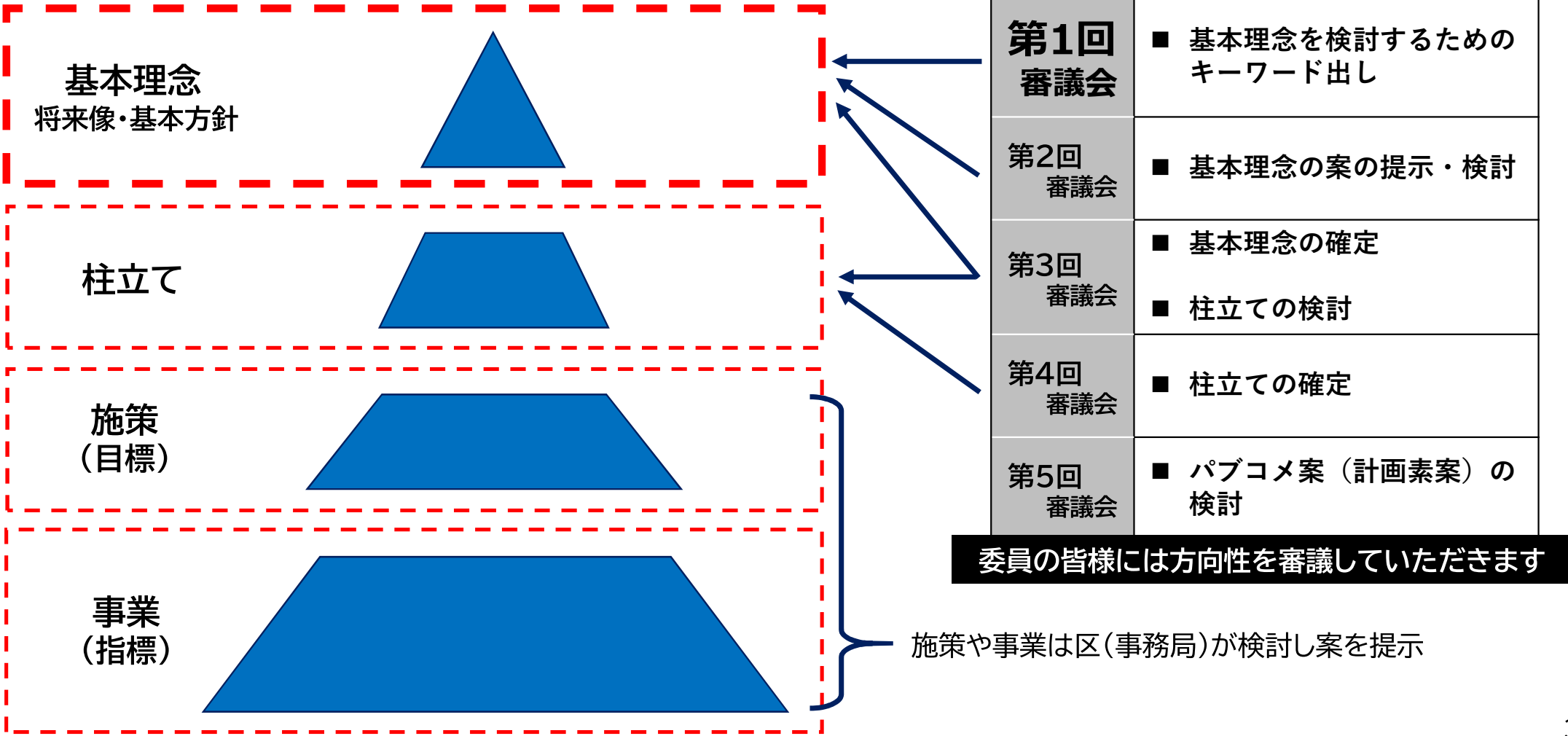
	日	時間	開催場所
第1回	令和6年8月27日(火)	18:30-20:30	足立区役所 8階 庁議室
第2回	令和6年11月21日(木)		
第3回	令和7年2月21日(金)		
第4回	令和7年度開催予定		
第5回			



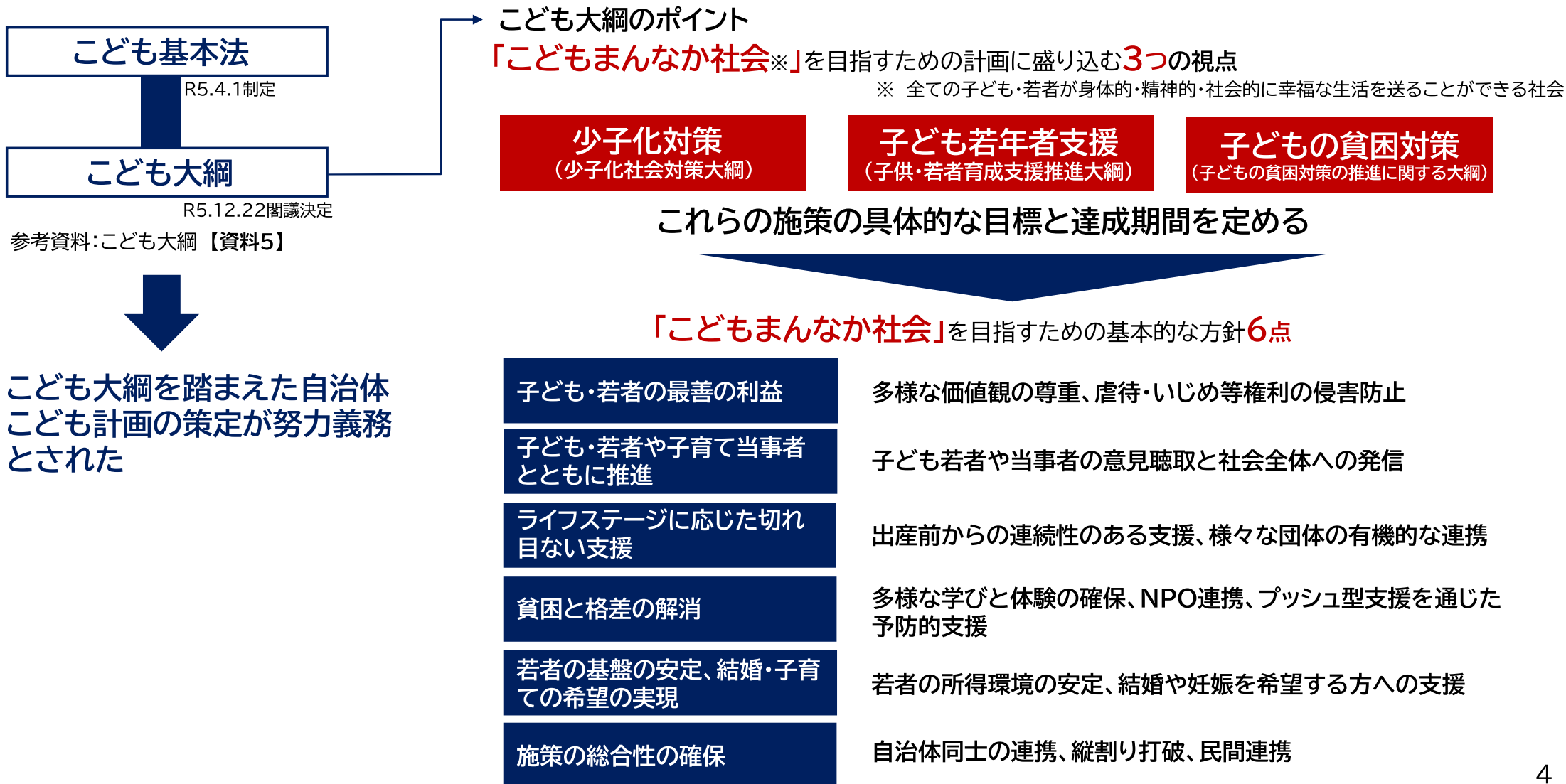
こども計画に必要な方向性や新たな視点について、答申をいただきたいと考えています

# こども計画審議会のスケジュール②

## こども計画の体系図案



# こども計画策定の趣旨と方向性(国の方針)①



## こども計画策定の趣旨と方向性(国の方針)②

### こども基本法（地方公共団体関係部分）

こどもまんなか  
こども家庭庁

- こども基本法は、こどもに関する様々な取組を講ずるに当たっての共通の基盤として、こども施策の基本理念や基本となる事項を定めた包括的な基本法。
- 同法においては、以下のとおり、地方公共団体の責務や、地方公共団体に対する義務の定めがある

#### 【第5条】 地方公共団体の責務

- 地方公共団体は、基本理念にのっとり、こども施策に関し、国及び他の地方公共団体との連携を図りつつ、その区域内におけるこどもの状況に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する

#### 【第10条】 都道府県こども計画、市町村こども計画の策定（努力義務）

- 都道府県は国のこども大綱を勘案し、また、市町村は国のこども大綱と都道府県こども計画を勘案し、それぞれ、こども計画を定めるよう努めるものとする（こども計画の策定・変更時は遅滞なく公表すること）
- 各計画は、既存の各法令（※）に基づく都道府県計画・市町村計画と一体のものとして作成することが可能  
※ 子ども・若者育成支援推進法第9条、子どもの貧困対策の推進に関する法律第9条等

#### 【第11条】 こども等の意見の反映（義務）

- 地方公共団体（※）は、こども施策の策定・実施・評価するに当たり、**こどもや子育て当事者等の意見を聴取して反映させるために必要な措置**（例：こどもや若者を対象としたパブリックコメント、審議会・懇談会等の委員等へのこどもや若者の参画促進、SNSを活用した意見聴取等）**を講ずるものとする**  
※ 「地方公共団体」とは、地方自治法に基づく普通地方公共団体及び特別地方公共団体を指し、議会や執行機関のほか、法律の定めるところにより置かれる委員会（例：教育委員会）や、法律又は条例の定めるところにより置かれる附属機関が含まれると解される
- **具体的な措置、意見聴取の頻度等は、個々の施策の目的等に応じて様々であり、地方公共団体の長等は、当該施策の目的等を踏まえ、こどもの年齢や発達の段階、実現可能性等を考慮しつつ、こどもの最善の利益を実現する観点から、施策への反映について判断**
- 聴取した意見が**施策に反映されたかどうかについて、こどもにフィードバックすることや広く社会に発信していくことが望ましい**

#### 【第13条、第14条】 関係機関・団体等の有機的な連携の確保（努力義務）

- 地方公共団体は、こども施策の適正かつ円滑な実施のため、こどもに関する支援を行う民間団体相互の有機的な連携の確保に努め、また、連携の確保に資するための情報通信技術の活用などを講ずるよう努めるものとする

# こども計画策定の趣旨と方向性(国の方針)③

## こども大綱（令和5年12月22日閣議決定）

こどもまんなか  
こども家庭庁

### 概要

○こども基本法において、以下が規定されている。

・こども大綱は、これまで別々に作成・推進されてきた少子化社会対策大綱、子供・若者育成支援推進大綱及び子供の貧困対策に関する大綱を一つに束ね、こども施策に関する基本的な方針や重要事項等を一元的に定めるもの。

### 第1 はじめに

こども大綱が目指す「こどもまんなか社会」

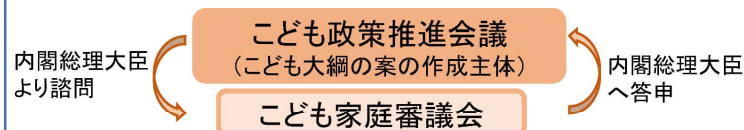
：全てのこども・若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる社会

（こども・若者から見てどのような社会かを具体的に記載）



全ての人にとって、社会的価値が創造され、幸福が高まる

- ・こども大綱の案はこども政策推進会議が作成することとされている。（こども基本法第17条第2項第1号）
- ・こども大綱の案の作成は、こども政策推進会議の決定により、内閣総理大臣からこども家庭審議会に諮問がなされた。



### 第2 こども施策に関する基本的な方針

- ①こども・若者を権利の主体として認識し、その多様な人格・個性を尊重し、権利を保障し、こども・若者の今とこれからの最善の利益を図る
- ②こどもや若者、子育て当事者の視点を尊重し、その意見を聴き、対話しながら、ともに進めていく
- ③こどもや若者、子育て当事者のライフステージに応じて切れ目なく対応し、十分に支援する
- ④良好な成育環境を確保し、貧困と格差の解消を図り、全てのこども・若者が幸せな状態で成長できるようにする
- ⑤若い世代の生活の基盤の安定を図るとともに、多様な価値観・考え方を大前提として若い世代の視点に立って結婚、子育てに関する希望の形成と実現を阻む隘路(あいろ)の打破に取り組む
- ⑥施策の総合性を確保するとともに、関係省庁、地方公共団体、民間団体等との連携を重視する

### 第3 こども施策に関する重要事項

こども・若者の視点に立って分かりやすく示すため、ライフステージ別に提示。

- 1 ライフステージを通じた重要事項
- 2 ライフステージ別の重要事項  
(こどもの誕生前から幼児期まで、学童期・思春期、青年期)
- 3 子育て当事者への支援に関する重要事項

### 第4 こども施策を推進するために必要な事項

- 1 こども・若者の社会参画・意見反映
- 2 こども施策の共通の基盤となる取組
- 3 施策の推進体制等

※こども大綱の下で進める施策の具体的な内容は、こどもまんなか実行計画（こども政策推進会議決定）として取りまとめ、毎年改定。



# こども計画策定の趣旨と方向性(国の方針)④

こども大綱が目指す「こどもまんなか社会」～全てのこども・若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる社会～

こどもまんなか  
こども家庭庁

全てのこども・若者が、日本国憲法、こども基本法及びこどもの権利条約\*の精神にのっとり、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、ひとしくその権利の擁護が図られ、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態(ウェルビーイング)で生活を送ることができる社会。

全てのこどもや若者が、保護者や社会に支えられ、生活に必要な知恵を身に付けながら

- ・心身ともに健やかに成長できる
- ・個性や多様性が尊重され、尊厳が重んぜられ、ありのままの自分を受け容れて大切に感じる(自己肯定感を持つ)ことができ、自分らしく、一人一人が思う幸福な生活ができる
- ・様々な遊びや学び、体験等を通じて、生き抜く力を得ることができる
- ・夢や希望を叶えるために、希望と意欲に応じて、のびのびとチャレンジでき、未来を切り開くことができる
- ・固定観念や価値観を押し付けられず、自由で多様な選択ができ、自分の可能性を広げることができる
- ・自らの意見を持つための様々な支援を受けることができ、その意見を表明し、社会に参画できる
- ・不安や悩みを抱えたり、困ったりしても、周囲のおとなや社会にサポートされ、問題を解消したり、乗り越えたりすることができる
- ・虐待、いじめ、体罰・不適切な指導、暴力、経済的搾取、性犯罪・性暴力、災害・事故などから守られ、困難な状況に陥った場合には助けられ、差別されたり、孤立したり、貧困に陥ったりすることなく、安全に安心して暮らすことができる
- ・働くこと、また、誰かと家族になること、親になることに、夢や希望を持つことができる

そして、20代、30代を中心とする若い世代が、

- ・自分らしく社会生活を送ることができ、経済的基盤が確保され、将来に見通しを持つことができる。
- ・希望するキャリアを諦めることなく、仕事と生活を調和させながら、希望と意欲に応じて社会で活躍することができる。
- ・それぞれの希望に応じ、家族を持ち、こどもを産み育てることや、不安なく、こどもとの生活を始めることができる。
- ・社会全体から支えられ、自己肯定感を持ちながら幸せな状態で、こどもと向き合うことができ、子育てに伴う喜びを実感することができる。そうした環境の下で、こどもが幸せな状態で育つことができる。

- ① こども・若者が、尊厳を重んぜられ、自分らしく自らの希望に応じてその意欲と能力を活かすことができるようになる。こどもを産みたい、育てたいと考える個人の希望が叶う。こどもや若者、子育て当事者の幸福追求において非常に重要。
- ② その結果として、少子化・人口減少の流れを大きく変えとともに、未来を担う人材を社会全体で育み、社会経済の持続可能性を高める。

こどもや若者、子育て当事者はもちろん、全ての人にとって、社会的価値が創造され、その幸福が高まることに

(\*こども家庭審議会における当該条約の呼称についての議論を踏まえ、当事者であるこどもにとってのわかりやすさの観点から、児童の権利に関する条約を「こどもの権利条約」と記載。)

# こども計画策定の趣旨と方向性(国の方針)⑤

## こども施策に関する基本的な方針

こども基本法  
こども家庭庁

日本国憲法、こども基本法及びこどもの権利条約の精神にのっとり、以下の6本の柱を基本的な方針とする。

### ①こども・若者を権利の主体として認識し、その多様な人格・個性を尊重し、権利を保障し、こども・若者の今とこれからの最善の利益を図る

- ・こども・若者は、保護者や社会の支えを受けながら、自立した個人として自己を確立していく意見表明・参画と自己選択・自己決定・自己実現の主体であり、生まれながらに権利の主体。多様な人格を持った個として尊重し、その権利を保障し、こども・若者の今とこれからのための最善の利益を図る。「こどもとともに」という姿勢で、こどもや若者の自己選択・自己決定・自己実現を社会全体で後押し。
- ・成育環境等によって差別的取扱いを受けることのないようにする。虐待、いじめ、暴力等からこどもを守り、救済する。

### ②こどもや若者、子育て当事者の視点を尊重し、その意見を聴き、対話しながら、ともに進めていく

- ・こども・若者が、自らのことについて意見を形成し、その意見を表明することや、社会に参画することが、社会への影響力を発揮することにつながり、おとなは、こども・若者の最善の利益を実現する観点からこども・若者の意見を年齢や発達に応じて尊重する。
- ・意見表明・社会参画する上でも欠かせない意見形成への支援を進め、意見を表明しやすい環境づくりを行う。困難な状況に置かれたこども・若者や様々な状況にあって声を聴かれにくいこどもや若者等について十分な配慮を行う。

### ③こどもや若者、子育て当事者のライフステージに応じて切れ目なく対応し、十分に支援する

- ・こども・若者の状況に応じて必要な支援が特定の年齢で途切れることなく行われ、自分らしく社会生活を送ることができるようになるまでを社会全体で切れ目なく支える。
- ・「子育て」とは、こどもの誕生前から男女ともに始まっており、乳幼児期の後も、学童期、思春期、青年期を経て、おとなになるまで続くものとの認識の下、ライフステージを通じて、社会全体で子育て当事者を支えていく。

### ④良好な成育環境を確保し、貧困と格差の解消を図り、全てのこども・若者が幸せな状態で成長できるようにする

- ・乳幼児期からの安定した愛着（アタッチメント）の形成を保障するとともに、愛着を土台として、全てのこども・若者が、相互に人格と個性を尊重されながら、安全で安心して過ごすことができる多くの居場所を持ち、様々な学びや多様な体験活動・外遊びの機会を得ることを通じて、自己肯定感や自己有用感を高め、幸せな状態で成長し、尊厳が重んぜられ、自分らしく社会生活を営むことができるように取り組む。
- ・困難な状況にあるこども・若者や家庭を誰一人取り残さず、その特性や支援ニーズに応じてきめ細かい支援や合理的配慮を行う。

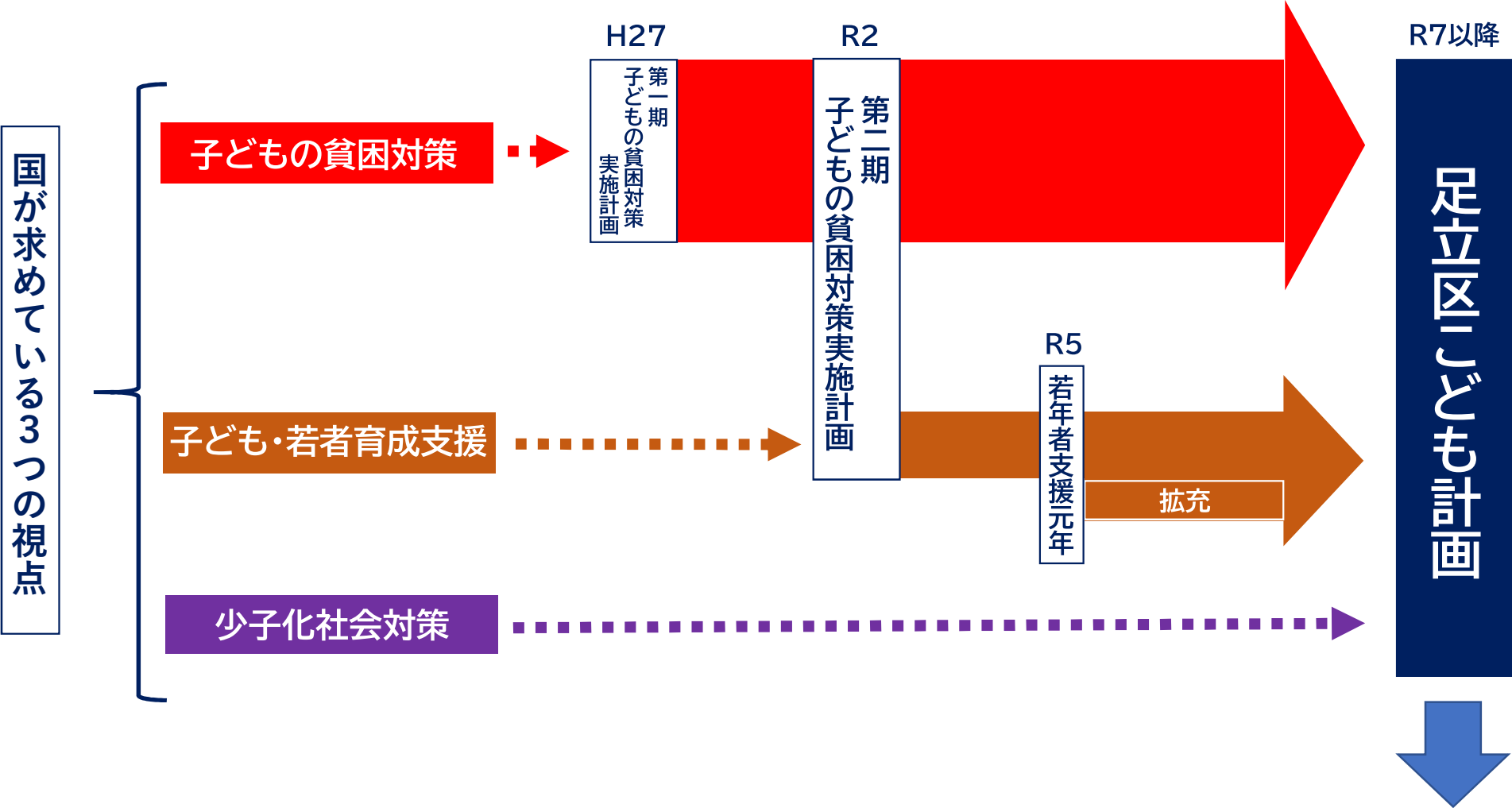
### ⑤若い世代の生活の基盤の安定を図るとともに、多様な価値観・考え方を大前提として若い世代の視点に立って結婚、子育てに関する希望の形成と実現を阻む隘路（あいろう）の打破に取り組む

- ・若い世代が「人生のラッシュアワー」と言われる様々なライフイベントが重なる時期において、社会の中で自らを活かす場を持つことができ、現在の所得や将来の見通しを持てるようにする。
- ・多様な価値観・考え方を尊重することを大前提とし、どのような選択をしても不利にならないようにすることが重要。その上で、若い世代の意見に真摯に耳を傾け、その視点に立って、若い世代が、自らの主体的な選択により、結婚し、こどもを産み、育てたいと望んだ場合に、それぞれの希望に応じて社会全体で支えていく。共働き世帯が増加し、また、結婚・出産後も仕事を続けたい人が多くなっている中、その両立を支援していくことが重要であるため、共働き・共育てを推進し、育児負担が女性に集中している実態を変え、男性の家事や子育てへの参画を促進する。

### ⑥施策の総合性を確保するとともに、関係省庁、地方公共団体、民間団体等との連携を重視する



# こども計画策定の趣旨と方向性(区の方針)①



既存の子どもの貧困対策実施計画を包含する

## こども計画策定の趣旨と方向性(区の方針)②

足立区の4つのボトルネック的課題

克服しない限り区内外から正当な  
評価が得られない根本的課題

学力

治安

健康

貧困の連鎖

貧困の連鎖は3つの  
課題の根底的課題

足立区においては

ここを解消しないことには  
それぞれの施策を打っても  
効果が出にくい

と考える

“子どもの貧困対策に重きを置いた”「こども計画」のイメージ

### 足立区こども計画

子ども・若者  
育成支援

少子化  
社会対策

子どもの貧困対策

土台(根底的課題)をしっかり取り組む

明るい要素や夢を描ける  
ような取り組みも計画に  
盛り込んでいく

子どもの貧困対策をベースと  
しない子ども・若者育成支援、  
少子化社会対策も検討

# こども計画策定の検討素材① ～子どもの貧困対策、子ども・若者育成支援の参考～

## 第2期足立区子どもの貧困対策実施計画の総括評価について

### 資料6

令和6年5月27日 足立区子どもの貧困対策 第1回検討会議

#### 足立区子どもの貧困対策 第1回検討会議（全体会）

日時：令和6年5月27日（月）午後2時から4時  
場所：足立区役所 中央館8階 庁議室  
進行：濱田 子どもの貧困対策・若者支援課長

#### 1 開 会 足立区長 近藤やよい

#### 2 報 告

##### （1）第2期子どもの貧困対策実施計画の振り返りについて

- 資料1-1：総括表
- 資料1-2：振り返りシート（1強化が必要な取り組み）
- 資料1-3：振り返りシート（2新たに取り組むべき事項）
- 資料2：振り返りシート（その他、学識評価を受けた取り組み）
- 資料3：振り返りシート（その他、計画以外の取り組み）
- 資料4-1：振り返りシート（長期的な成果指標）
- 資料4-2：振り返りシート（中短期的な成果指標）

##### （2）第2期足立区子どもの貧困対策実施計画の改定について

- 資料5：「第2期子どもの貧困対策実施計画」の改定について
- 資料6：今後各部で考えられる取り組み

#### 3 意見交換

##### 本検討会議の目的

これまでの取り組みを踏まえて次期計画の基本理念の方向性を検討する

#### 4 そ の 他 次回の検討会議（全体会）について

調整中（7月中～下旬開催予定）

### 出席者

学識経験者：阿部先生、末富先生、藤原先生  
区：教育長、関係部長等

### 内 容

第2期子どもの貧困対策実施計画における取り組みの振り返り

強化が必要な取り組み

新たに取り組むべき事項

を重点に総括

これまでの取り組みを踏まえて

「こども計画」の基本理念の方向性

を検討

# こども計画策定の検討素材② ～子どもの貧困対策の参考～

## 子どもの貧困対策実施計画の振り返りに対する意見

### 1 教育について

区	子どもの貧困対策の指標は今後見直すと思うが、教育においても学力調査の結果だけでなく、「 <b>学びに向かう力」「自己調整」を上げていけば結果、学力に跳ね返っていく</b> のではないかという視点を持っている。教育の指標を今年度見直していきたい。
学識	指標を見てコロナ禍の影響はあったと思う。子どもたちが学校で楽しいという経験を増やしてほしい 命の安全教育を学校教育でも取り組んでいただけるとうれしい。本当の意味での力を育ててきたか、「被害にあわない」よりも、「自分たちが加害者にならない」教育。 <b>相談できるスキルを身につけて</b> いかないとならない。少なくとも中学校で知っておくのがよい。
区	小・中学校では子どもたちにトラブルがあったとき担任に相談するのが一番多い。いじめのめことはタブレットから発信できる。中学卒業後はない。こども計画の中でどんな形で落とし込んだらよいと思う。ワンストップじゃないが、「 <b>相談すればどこかにつながる安心感</b> 」がどこかに必要かと思う。

### 2 不登校対策

区	不登校がだいぶ増えている。分析が必要。不登校の子どもたちの本当の <b>考え、気持ち、大人と子どもとの間に乖離</b> がある。今年、来年にかけて足立区の不登校の子どもたち、または全体にアンケートをとった中でどういった不登校の傾向があるのか、把握していきたい。
区	昨年度からモデル的に中学校に居場所を作った。そこへ行けば支援員がいる。中学校で増やしていきたい。現在4校。学校を休みたいという子を少なくしたい。

### 3 ASMAP(エースマップ)事業※1、ポピュレーションアプローチについて

※1 あだちスマイルママ&エンジェルプロジェクト  
妊娠届出時のアンケートや相談内容から、母子保健コーディネーター等が個別のケアプランを作成し、必要な制度やサービスを案内するなど、妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援を実施

学識	ASMAPは成果があった。さらにプラスにするために何をやっていくか。「時間の貧困」の視点で <b>子どものアタッチメントをどう育てていくか</b> 、大きな柱が必要。いまのハイリスクアプローチをやりつつ、ポピュレーションアプローチを展開していくか。 <b>切れ目ない支援</b>
区	7年度以降、保育園を地域の拠点として、保育士がアウトリーチして保育園に入る前までの全ての子育て世帯を対象にアプローチしたい。こども計画の一つの目玉にしてほしい <b>切れ目ない支援</b>
学識	アウトリーチするときどういうコンテンツを持っていくかが重要。

### 4 外国にルーツを持つ子どもへの支援について

学識	今後少子化の対策として外国人が増えていくことに対して、どう <b>インクルージョン</b> していくのか。受け入れる側、受け入れられる側の取り組みしていけたらいいと思う。
区	日本語が話せない・読めない <b>親へのアプローチもセット</b> で実施している。外国人人口が増えている中、これからどんどん強化していかなければならないジャンル。 <b>切れ目ない支援</b>

### 5 その他

学識	<b>養育困難発生率が増えている</b> 。そういう方が引っ越して入ってきているのか、見つける力がついたからか、分析を。
学識	親の学歴が低いほど登校渋りが2倍、3倍になっていることが見えてきた。(その子の) <b>学歴よりも経済状況で左右</b> されている。この点から、政策的に何かできる可能性があるのではないかと考えている。足立区でモデルができれば。



# こども計画策定の検討素材③ ～子ども・若者育成支援の参考～

## 学識からのご意見

- 所得の再配分率が低い世代は15～24歳
- 高校生世代に対しての支援は各自治体の手薄になりがち。足立区は学習支援などを実施している
- **若者を支援することが少子化対策にもなる**

※ 表は「子ども」「若者」に関する主な事業を抜粋したイメージ

産前・産後期	就学前期	小学生期	中学生期	高校生・大学生期	
ASMAP事業	あだち絵本シアター	AIDリル小学1・2年を加え全学年へ拡大		R4.1 設置  若 年 者 支 援 協 議 会	
	【幼稚園】 特色ある教育づくり事業	MIM	そだち指導		中1夏季勉強合宿 英語チャレンジ講座 英検費用補助 英語マスター講座 足立はばたき塾
	【保育園】 読書 運動あそび 幼保小接続期カリキュラム	登校サポーター・別室登校			
	一時保育	チャレンジ学級			
	病児・病後児保育	家庭学習支援	あすテップ		
	あだちマイ保育園	教育相談			
	子育てサロン	特別支援教室			
		居場所を兼ねた学習支援			
	子ども食堂など居場所支援事業/食の支援/学校での補助食提供/夏休み期間中の食を確保				
	幼稚園保育料補助	就学援助			
3歳以上の保育園等保育料無償化 ※ 0～2歳児非課税世帯を含む	物価高騰支援(上乘せ)				
私立幼稚園等給食費無償化	小・中学校給食物価高騰・食材費支援				
保育園給食費無償化	小学校給食費無償化	中学校給食費無償化	貸付型育英資金		
			高校生版はばたき塾 足立ミライゼミ		
			高校中退者等の 学び直し支援		
			SODA・NPO等連携 コミュニケーション能力向上へ 伴走支援		
			高校生応援支援金		
			返済不要 給付型奨学金		

## こども計画策定の検討素材④ ～少子化社会対策の参考～

足立区転出入者アンケート調査報告書  
(令和4年2月)

### 資料7

足立区転出入者アンケート調査  
報告書

令和4年2月  
足立区 政策経営部 政策経営課

資料では「調査から見えてきたこと(P9～28)」を抜粋

### 調査で見えてきたポイント5点

若い世代は家賃価格等と利便性のバランスの良さで足立区を選んでいる

子育て世帯は住宅購入時に住宅事情から区外を選択している

「緑・公園・水辺などの自然環境」が高い評価を得ている

「世間からの評判」及び「治安」が低い評価となっている

転出先の行政サービスを調査せずに転出する子育て世帯が存在している

## こども計画策定の検討素材⑤ ～少子化社会対策の参考～

足立区令和4年度「出産・子育てアンケート」  
調査結果(令和5年1月)

### 資料 8

足立区  
令和4年度「出産・子育てアンケート」

調査結果

令和5(2023)年1月  
足立区 政策経営部 政策経営課

資料では「調査から見えてきたこと(P3~14)」を抜粋

### 調査で見えてきたポイント6点

子育てや教育にお金がかかりすぎることから  
日本の出生率が伸び悩んでいると感じている

子どもを2人持ちたいと望む方が多いが、その  
うち半分以上が、一人も子どもを持てていない

理想の子ども持つため、就学前、就学後の子育て  
費用や、妊娠・出産に関する支援が求められている

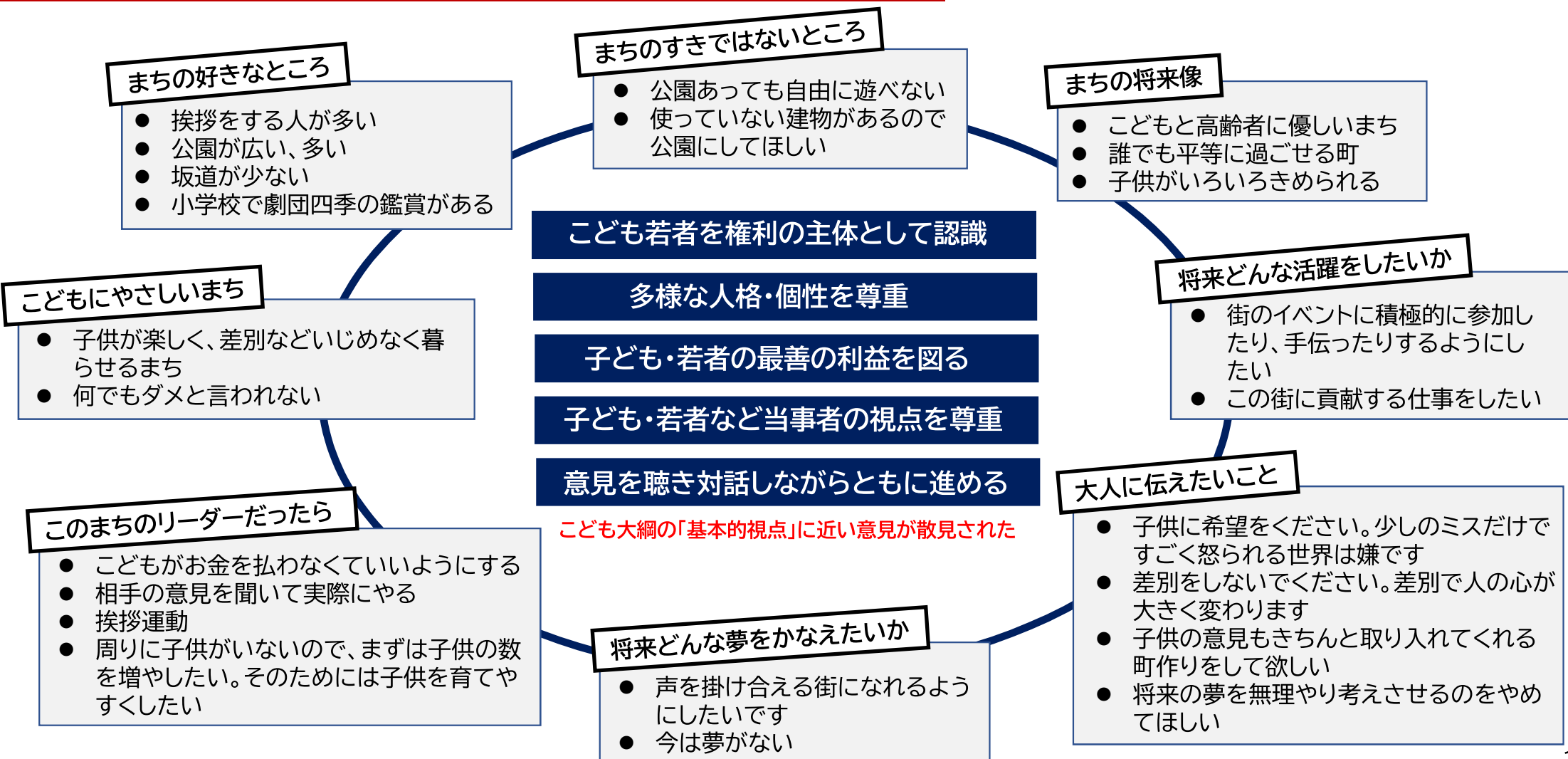
就学前までの子育て環境では、預け先の拡充や、  
職場の理解・支援の希望が多い

就学前までの子育て費用に関する支援で要望が  
高いのは、生活費補助や教育・保育費用補助

就学後の子育て費用に関する支援で要望が高い  
のは、教育費用

## こども計画策定の検討素材⑥ ～子ども・若者の意見～

足立区基本計画策定において聴取したアンケート内容 対象:小・中学生 R6.4.19～7.31





# こども計画策定の検討素材⑦ ～子ども・若者の意見～

## アダチ若者会議を実施(予定含む)

第1回 8月4日開催 公募型 12名参加

対象者

足立区在住・在学・  
在勤・ゆかりのある  
高校生世代

テーマ

夢の実現に「私たちは  
これが必要だ」ほか

居場所

- 勉強できる場所がほしい
- 図書館がたくさんあるけど席がない
- 楽器の演奏や、スポーツができる場所がほしい
- 高校生が集まれる場所(コミュニティ)がほしい
- 公園をうまく活用してスポーツができるようにしてほしい
- ただの居場所よりも目的をもって集まったほうがいい
- コロナでできなかったイベントをやりたい(卒業旅行、入学式、足立区版「18祭」)
- ほかの高校の部活同士で交流したい

学び

- 高校に大学生のチューターがいると  
関わりが持てていろいろ相談できる
- 留学費が高い
- 私立学校が高いから給付金がほしい
- 夢を決めてから大学の話をしたい

将来の夢

- キツザニアのようなものがあれば  
いい
- 実際働いている人の生の声を聴く  
機会が少ない(コロナで職場体  
験がない)

悩み・相談

- その道のプロにお話が聞ける、アドバイスをもらえるツールがほしい
- 共通の話題で話せたらいい。オンラインでも対面でも
- 悩みを相談するならチャットがいい(顔が見えないほうがいい、区の事業  
だと安心、雑談レベルで話せるツール、悩みの相談のハードルを下げる)
- 夢を実現するために大学に行くけど、学力・金銭的にあきらめてしまうこ  
とがあるのか



第2回 9月6日開催 公募型

対象者

足立区在住・在学・在勤・ゆかりのある若者

テーマ

夢に向かってチャレンジしていくうえで必要な支援

8月～11月 オンライン活用

オンラインで意見を表明できる「きかせて  
みんなのいけん」で声を聴いていきます！

9月～10月開催 アウトリーチ型

高校や若者が集まる施設を訪問し、  
声を聴いていきます！

## こども計画策定の検討素材⑧ ～第2期子どもの貧困対策 検討会議での意見～

基本理念  
将来像・基本方針

柱立て

施策  
(目標)

事業  
(指標)

### こども計画の基本的理念につながる考え方

#### 学識からのご意見

- すべての子どもを大事にしながら、より困難な人たちにより手厚く応援していくこと。特に困難な人たちから行政が手を差し伸べていき、一緒に良くしていく「エクイティ(公正)」という考え方。
- いろんな言い方、考え方がある、子どもの人権、人格を尊重する。この辺りを理念にどう表現していくか。
- 貧困率は改善し、全体的に困難層は少なくなっている一方、格差は広がっている。  
こども大綱は「全体の子育て世帯に対する支援」という色が強くなった。その中で「より厳しい層へ目を向けていくスタンスは絶対に外せない」ということでないと、この層が不登校に繋がったり、相対的な格差が生じる。本当の意味でのアンダークラスができてしまうことをすごく懸念している。